

龍天様について

平成三十年十一月二十六日於加茂法話会

曹洞宗では、年頭に当たり、自分が法恩を被った師匠の所に、寿餅を贈ると言う礼法がある。正月三朝に福寿諷経をして祈念をこめた延命の寿餅【鏡餅】を年頭に拝登し奉呈するのが、修行道場の習わしである。遠距離の場合は、細片にして郵送する。



竜天輔（竜天護法善神／白山妙理権現）雲水が 弁道修行の守護神として「竜天さん」と称する一軸を必ず所持し、居室に奉安、出向の際には袈裟文庫に入れて道中する。軸の長さは二尺余、上方に「奉請」と書き、その下に「竜天護法大善神（右）白山妙理大権現（左）」と二行に並べて謹書してある。竜天護法善神とは、難陀竜王をはじめ、諸天善神の総称である。

永平寺では、十二月二十七日に餅つきをして、「延命の寿餅」に心経、消災呪をあげて、法身堅固 福壽無量を祈念して、郵送するのである。《改まった年をめであたい事がつきつきと重なり、指導を受けた修行僧が、「感謝の意を込めてこの季節、お変わりございませんか」「延命の寿餅」を送って、健康長寿を願うのである。》

奉請
法幢師老古佛道體堅固法壽無量
本師老古佛法體康寧福壽無量 攸
參學師老古佛身心安寧如意吉祥

昔は餽贈帖を付けて物を送った。 餽贈帖に対して答帖式

謹 具
聊 伸
壽 餅
伏 冀
笑納 勿却幸甚
小子○○頓首百拝

過 蒙
雅 愛
感戴 益深シ
紅箋
某生姓名頓首（再）拝

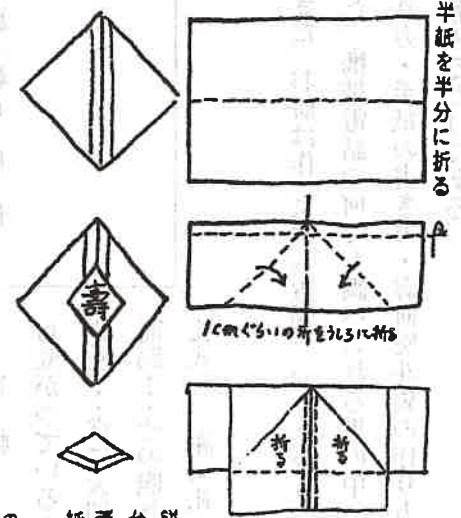
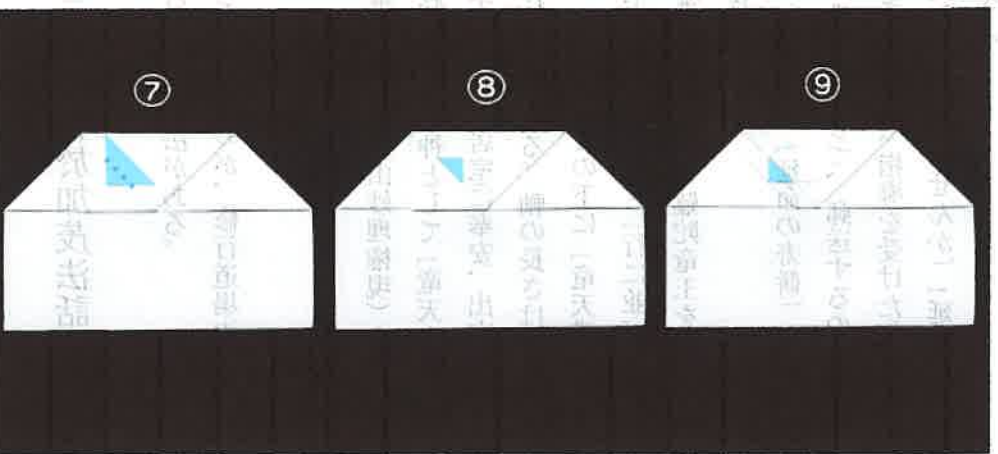
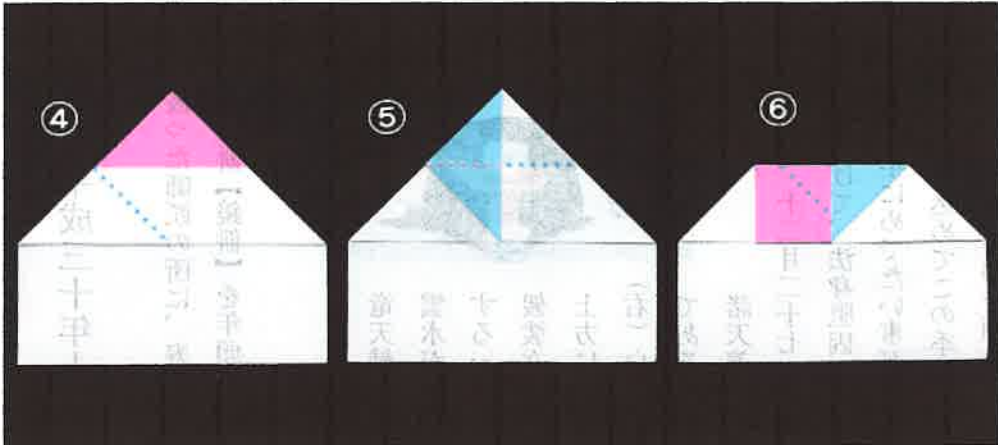
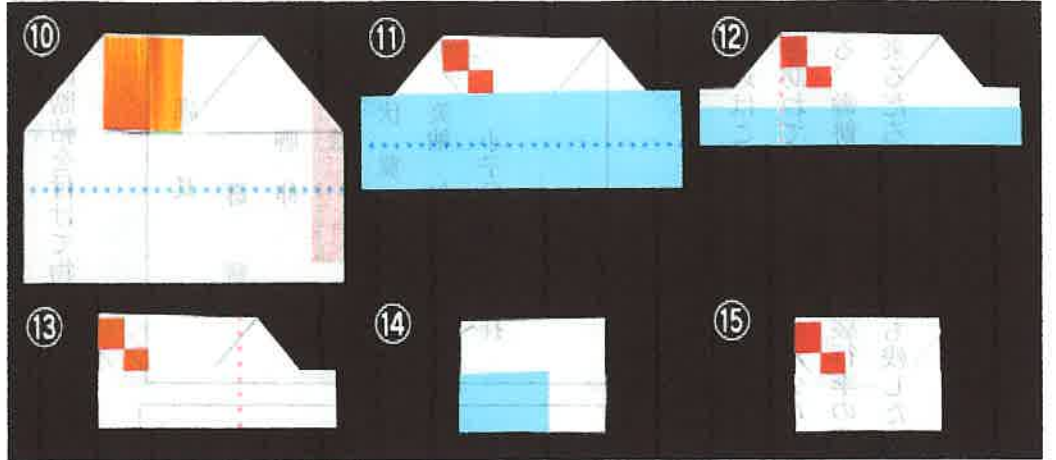
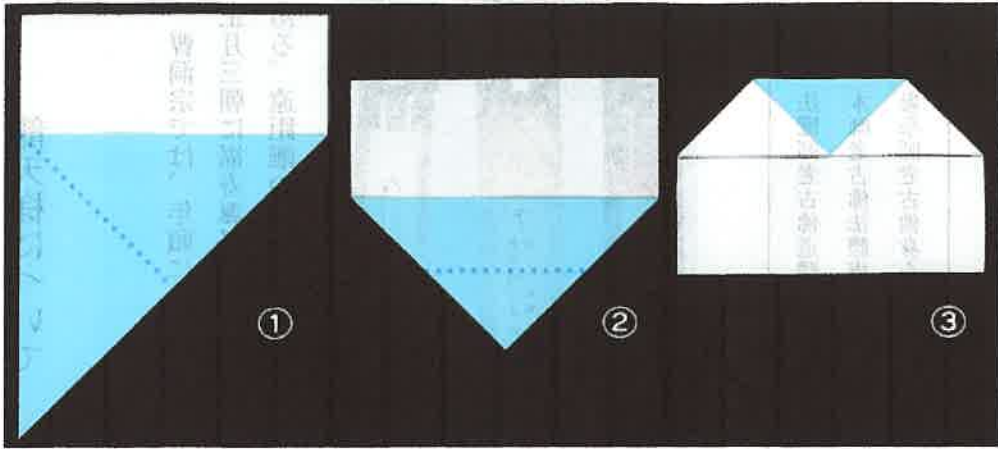
餽贈帖

謹んで壽餅具す 聊か賀敬を伸べる
伏して 冀くは 笑納（粗末なもので笑わないで下さい）（贈り物）却（しりぞける）と勿れ 幸甚（こうじん）（はなはだ幸せである）

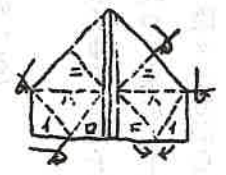
答帖

可愛がつている人から物を給う事。
雅愛…常に大切に
寵賜…その賜り物。 拜嘉…めでたい
礼式、謝（礼をのべる）

最近はこのようなことが、無くなってきた。お餅は作らない。真空パックになり、弟子師匠も親子が多くなり、師を訪ねて、道を求める事が少なくなった。携帯電話で何でも調べられる世の中に成って来た。平成最後の年である。壽餅の祭り方・袈裟行李の兜の作り方・手紙の書き方・壽餅熨斗袋の作り方、段々と分らなくなる時代が来るだろう。すこしでも残したいと念願するだけである。



餅一片を細片にする時菱形にする
 台形になるようにする
 菱形の内包みの上に赤色の菱形の
 紙をはり寿と書く。
 「古来中国では寿と書いた赤い袋
 のお年玉袋を子供に上げた。魔を
 除き福が二重に来るように」と



()から口まで縫うに折る